

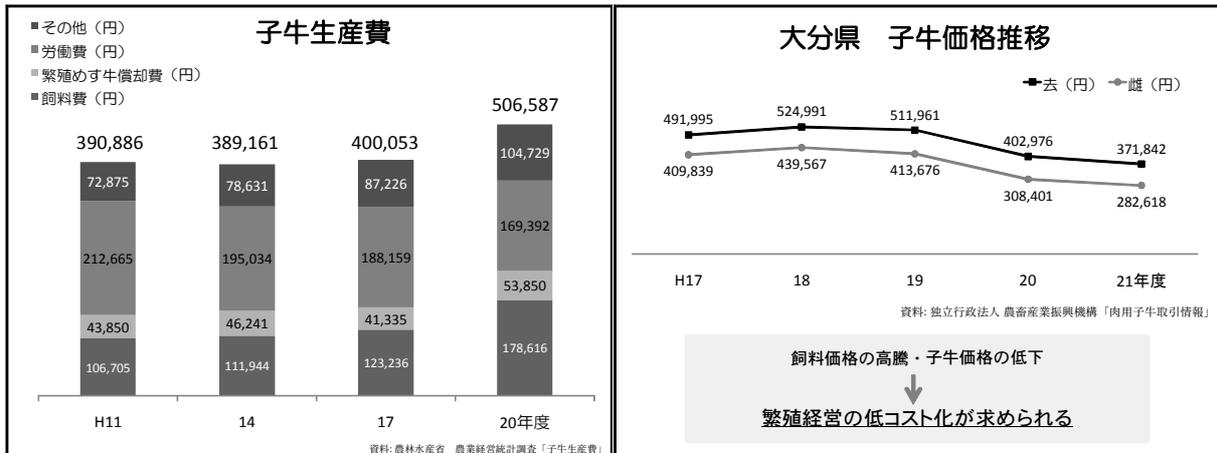
19. 「おおいた型放牧」を活用した新たな肉用牛経営の推進

北部振興局

○田原有紀、本田文博

【背景】

飼料価格の高騰による子牛生産費の増加、子牛市場価格の下落等の経営環境の悪化に対応するため、肉用牛繁殖経営体には一層の低コスト生産が求められている。

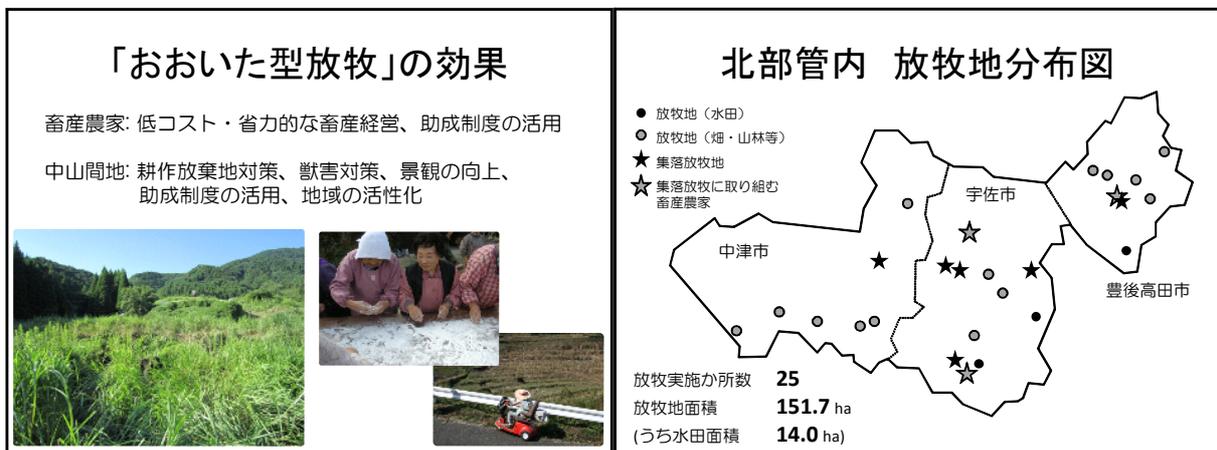


【「おおいた型放牧」の効果】

「おおいた型放牧」は畜産農家にとっては低コスト・省力的な畜産経営、助成制度の活用、中山間地域にとっては耕作放棄地対策、獣害対策、景観の向上、助成制度の活用、地域の活性化など、多様な効果がある。特に最近では、集落営農組織等と連携した集落放牧を重点的に指導している。

【北部管内における「おおいた型放牧」の取組状況】

北部管内では、平成 22 年 12 月現在、放牧実施か所数 25、うち集落放牧地は 6 か所。放牧地面積 151.7 ha、うち水田面積 14.0 ha で放牧に取り組んでいる。

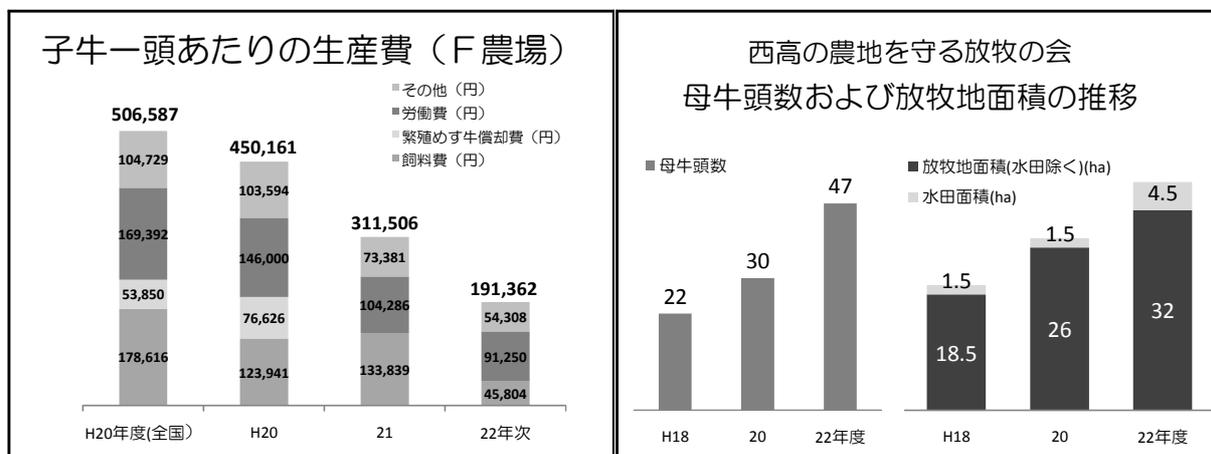


【西高の農地を守る放牧の会】

豊後高田市で新規に繁殖経営に取り組む有志により設立されたのが「西高の農地を守る放牧の会」(以下「放牧の会」)である。平成 17 年に設立し、現在の構成員は 6 名。JA くにさき西部、宇佐家畜保健衛生所、北部振興局で毎月巡回を行い、繁殖や飼養管理技術に関する指導を行っている。また、学習会や、畜産研究部と協力し研修会(シバ型草地簡易造成技術研修会)を実施し、会員の技術向上のため支援を行う。

放牧の会会員である F 農場では、子牛育成についても放牧を活用した飼養管理に取り組んでおり、豊後玖珠市場への出荷まで母子ともに放牧育成を行う。この結果、F 農場の子牛一頭当たりにかかる生産費は年々減少しており、平成 22 年次の生産費は 19 万 1362 円である。このように、放牧を活用することで飼料費の削減、労働力の削減、施設の低コスト化といった効果が認められた。

放牧の会における飼養母牛頭数、放牧地面積は、ともに最近 5 年間で増加しており、平成 22 年度の母牛頭数は 47 頭、放牧地面積は 36.5 ha である。



F農場の放牧地



低コスト牛舎

【助成制度の活用】

地目が田の農地で放牧に取り組む場合、それぞれ要件があるが、以下の助成制度の活用が可能である。戸別所得補償モデル対策に含まれる水田利活用自給力向上事業(飼料作物)、また、耕畜連携粗飼料対策事業(水田放牧)、さらに、集落で共同して放牧に取り組むことにより中山間地域等直接支払制度を活用することもできる。助成制度を活用することで、最大で 10 アールあたり 6 万 9000 円の助成金が受けられる(平成 22 年 11 月時点)。

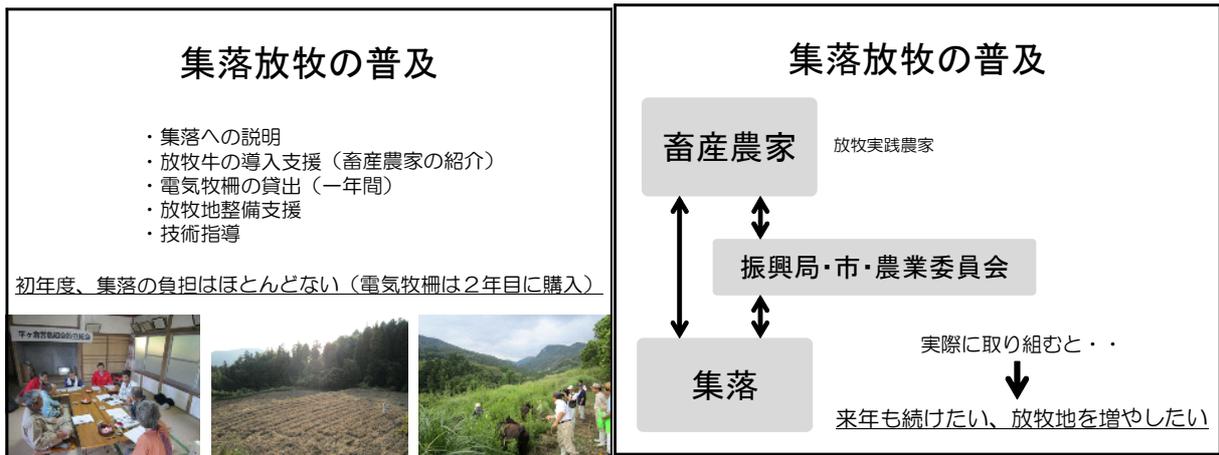
| | |
|--|--|
| <h3>助成制度の活用</h3> <p>水田利活用自給力向上事業（飼料作物） 35,000円/10a</p> <p>耕畜連携粗飼料増産対策事業（水田放牧） 上限 13,000円/10a</p> <p>中山間地域等直接支払制度 田,急傾斜 21,000円/10a</p> <p style="text-align: right;">（最大）計 69,000円/10a</p> | <h3>集落放牧の普及</h3> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 集落 </div> <p>条件が悪く、耕作していない田がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報、技術の不足 ・牛がいない ・事故等が不安 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><u>まずは、実際に取り組んでもらう</u></p> |
|--|--|

【集落放牧の普及】

中山間地域の水田では、排水に問題がある、一枚の面積が小さく効率が悪い、鳥獣被害が多く作物を作るのに不向き、労働力が足りないなど、様々な理由で耕作放棄地が発生している。放牧を活用することで多様な効果が期待できるが、集落や耕種農家が牛を購入することは初期投資や飼養技術の面から課題が多い。そこで、畜産農家と連携して放牧に取り組む集落放牧の普及を行っている。集落に営農組織や農事組合法人など、農地の受け皿になりうる組織がある場合は、集落が農地を管理するしくみづくりを指導する一方、限界集落など働き手がほとんどいない場合は、畜産農家が農地を集積し、管理するよう支援している。例として、前者は宇佐市院内町余谷や宇佐市安心院町平ヶ倉、後者は宇佐市灘や中津市本耶馬溪町くつわ地があげられる。

| | |
|--|---|
| <h3>集落放牧の普及</h3> <p>営農組織、農事組合法人など、集落に農地の受け皿がある</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">集落が農地を管理</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 余谷 平ヶ倉 </p> | <h3>集落放牧の普及</h3> <p>限界集落で、働き手がほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">畜産農家が農地を集積・管理</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 灘 くつわ地 </p> |
|--|---|

集落が初めて放牧に取り組む場合、放牧に関する情報提供や放牧牛の導入支援、電気牧柵の貸し出しも行っている。電気牧柵の設置や維持管理指導、水飲み場の設置や退牧時期の判断も指導する。初年度、集落にとっては初期投資もほとんどなく、取り組みやすくなっている。振興局は、市や農業委員会と共同して、畜産農家と集落の連携を支援している。実際に放牧に取り組んだ集落からは、「次年度も続けたい」「放牧地を増やしたい」といった前向きな意見が出ている。



【豊後高田市小田原の取組】

豊後高田市小田原では、営農組織と畜産農家が連携して放牧に取り組んでいる。営農組織は飼料用米、飼料稲の作付けに取り組んでいるが、条件の悪い田は放牧利用し、小規模移動放牧による転作田の有効活用を実践。一方、交雑牛肥育経営を行う T 牧場は放牧牛（繁殖雌牛）が産んだ子牛を早期離乳し、既存の牛舎で飼養、若齢肥育を行っている。

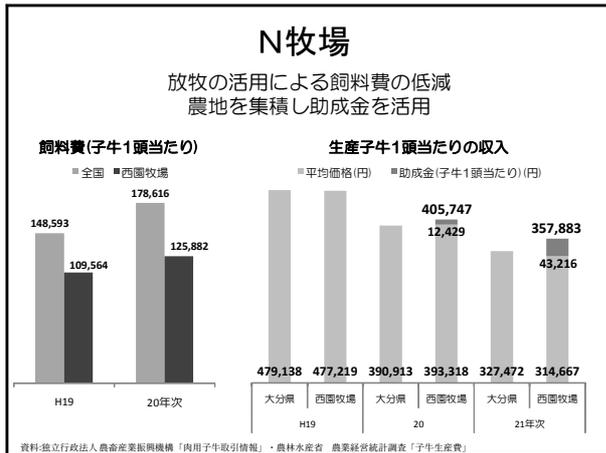
集落の農地を囲むように放牧地を設置することで、放牧地より内側の水田において獣害軽減の効果があつた。



【N牧場の取組】

肉用牛繁殖経営を行うN牧場は、母牛の飼養管理に放牧を取り入れている。また、荒廃水田を集積し、放牧利用することで農地の管理も行っている。そのため、子牛1頭当たりの飼料費の値は全国に比べ小さい。

水田放牧においては助成制度を活用している。助成金を子牛一頭当たりに換算すると平成20年次は1万2429円、平成21年次は4万3216円となり、下落した子牛価格を補っているといえる。



N牧場が放牧利用した田

【今後の取組】

いままでの集落放牧の取組は集落との畜産農家の活動に限定されており、集落同士の連携はなかった。そこで、放牧を活用して農地を守る取り組みのネットワーク化を行い、情報交換や連携強化、消費者へのPRを行っていこうと考え、2010年11月に畜産農家2戸、2集落で構成する「九州・USA遊牧ネットワーク」を設立した。今後、放牧サポーターの活動を通じ、集落や消費者に対して、放牧を活用して農地を守る取組への理解や参加を呼びかけていく。



今後の取組

九州・USA遊牧ネットワーク会議

構成員：畜産農家2戸、2集落
関係機関：宇佐市、宇佐市農業委員会、JAおおいだ大分宇佐地域本部、大分県北部農業共済組合、大分県北部振興局

九州・USA遊牧ネットワーク会議

放牧サポーター大募集

放牧サポーターの募集

一般の消費者への参加呼びかけ

集落を知ってもらう
農地を守る活動を理解してもらう